

目的 従来は体型にかかわらず衣服デザインを実技として表現する場合、平面製図で原型を理解した上でデザインを寸法的に展開していくという方法が多く、紙面上ではゆとり量やデザインとしての分量を考えて、服の出来上りをイメージする事は難しく、仮り縫いも体型等を考慮して行なうにはある程度の訓練を要する。

ここでは体型的に問題をもつ肥満体型をモデルにして立体裁断と平面製図について検討報告する。

方法 肥満体のモデルを基に立体用ボディを作りトアルによる立体裁断でパターンを作る。一方平面製図によるパターンを作り両者の比較を実物製作により行なう。

結果 平面製図を基にした仮り縫い補整で美しいシルエットを作るにはかなりの訓練を必要とするが、立体裁断では視覚を通して、出来上りそのもののイメージを捕えながらピン打をするため、デザインと体型と衣服構成のバランスを早く的確に捕えることができる。